



「生団連ニュースレター」は、国民の生活・生命を守るという使命を追求する生団連の取り組みに関する最新情報を、日頃ご支援いただいている皆様にお伝えしています。

平成25年9月号
国民生活産業・消費者団体連合会

■第3回 食品廃棄対策委員会

～ 賞味期限問題への取り組みに着手。生活者の実態調査の実施へ～

食品廃棄対策委員会では、生活者視点で社会全体の食品廃棄を削減すべく活動を行っています。8月28日にKFCホールで行われた第3回には、33名の委員が参加されました。

委員会前半は、世界の食品廃棄の現状や食品廃棄が引き起こす我々への影響などについて描かれたドキュメンタリー映画『もったいない！』の試写を行い、食品廃棄の現状を再確認し、本委員会が食品廃棄削減へ取り組むことの意義を共有いたしました(ドキュメンタリー映画『もったいない！』の詳細については裏面をご覧ください)。

後半は、委員会メンバーによる今後の取り組みについての討議を行いました。前回の委員会にて「生活者への食品廃棄削減の周知・啓発」のに向けた実態調査を行うことが合意されました。これを踏まえ事務局から、食品廃棄の根本的な原因の一つである「賞味期限」に焦点をあてた調査設計を提案しました。調査については、委員の皆様からの意見を集約し、実施することとなりました。

また、食品廃棄をいかに削減するかというについて「賞味期限と消費期限という表現」「賞味期限の設定方法」「賞味期限の表示方法の工夫」など、様々な角度から討議がなされました。

飽食と言われる日本では危機感を持つ生活者が非常に少なくなっていると危惧されます。本委員会では、生活者一人ひとりがしっかりと問題意識を持ち、正しい行動がとれるよう、事業者と生活者が協働して取り組みを進めてまいります。



○ 生団連の活動の詳細につきましては、年4回の『生団連会報』および生団連のホームページに掲載されています。

生団連は清水信次会長(㈱ライフコーポレーション会長)の発案で設立、「国民の生活・生命を守る」ことを使命とする団体です。会員は500超の企業、業界団体、消費者団体から構成され、日本の直面する諸課題解決に向け生活者視点で取組んでいます。

【お問合せ先】

国民生活産業・消費者団体連合会 清水(栄)／宮田 ☎:03-3662-5240 ✉:jimu@seidanren.jp
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-6-2 小津本館ビル7階 URL: <http://www.seidanren.jp/>



もったいない!
TASTE THE WASTE

～ 生団連も協力団体となります ～

世界的な食料廃棄の問題を追った 驚愕のドキュメンタリー映画『もったいない！』 が9月21日から日本で公開されます。

信じがたい真実ですが、私たちが日々食べる食品は、そのおよそ3～5割が食卓に届く前に捨てられています。生産の現場で、流通の過程で、小売販売の段階で、そして家庭でも・・・日本をはじめ世界各国に取材して食料廃棄の問題を追求め、私たちに何が出来るのかを探った、ドキュメンタリー映画「もったいない！」が日本で公開されます。

生団連はこの映画の協力団体となり、8月28日の食品廃棄対策委員会にて公開に先立って上映会を行いました。この映画に出てくる食品廃棄の現実を目の当たりにして、「その原因がどこにあるのか?」「私達の生活にどのような影響があるのか?」

を生活者に考えていただきたい、そして私達に何が出来るのかを探る機会になればと願っております。食品廃棄問題に興味がある方は、ぜひとも映画館まで足を運んでください。

【映画情報】

「もったいない！」(原題“Taste the Waste”)

監督:バレンティン・トゥルン

2011年/ドイツ映画/88分

9月21日(土)から、東京都写真美術館ホール、名演小劇場(名古屋)ほか全国順次ロードショー

▶HP www.mottainai-eiga.com

▶FB www.facebook.com/mottainai.eiga



フランス 食品を廃棄するスーパーマーケットの店員



ドイツ 捨てられたパンが山となっている廃棄場

■時評社主催 「超高齢化時代の生涯現役主義」講演会

8月6日、ルポール麹町にて、時評社主催の「超高齢化時代の生涯現役主義」講演会が開催されました。文字通り、世界に類のない超高齢社会に突入した日本が、長い老後をいかに元気に過ごし、どのようにして活力ある超高齢社会を構築していくべきかという難題に挑んだテーマです。

日本経済を支える稼働世代も減少し、高齢者を支える社会保障の財源確保が危ぶまれています。そして社会保障の大層を占める医療費、介護費を減らすためには、お年寄り一人ひとりの健康寿命を延ばし、可能な限り生き生きと過ごしてもらうことが最善です。そのためには「高齢者が暮らしやすい街づくり」「社会参画しやすいコミュニティ」「健康を支える多種多様なヘルスケア」など、産学官民すべてが一丸となって新し

い社会の構築を図らねばならないと考えられています。

当日は、霞が関関連4省や自治体に加え、専門の学識第一人者、多分野にわたる企業など、多彩な講師陣が講演を行いました。目指すべき活力のある高齢化社会像を、多角的な見地から総合的に模索する様々な取り組みが紹介されました。

来場者は約310名と盛況で、生団連会員も26名が聴講しました。皆様、日本が抱える超高齢社会の現状と未来について、高い問題意識を持って参加していただけたと考えております。

生団連では、これからも有意義な情報提供の場を会員の皆さまに案内させていただきます。

◆会員の皆様へ:「人口減少・超高齢社会対策委員会」委員募集のお知らせ

既に郵送にてご案内をしておりますが、生団連では人口減少・超高齢社会対策委員会のメンバーを募集しております。日本が直面する喫緊の課題について活発な議論と情報収集の場としていきたいと考えております。締め切りは9月30日(月)となっておりますので、委員会への参画について、何卒ご検討のほどをお願い申し上げます。